

第1回 初倉地区小中学校再編方針検討委員会 概要

教育総務課

日時：令和2年9月30日午後7時00分～午後8時31分

会場：初倉公民館「くらら」第1・第2集会室

出席：委員11人（保護者代表3人、地域住民代表2人、初倉小学校長、初倉南小学校長、初倉中学校長、初倉公民館長、教育部長、学校教育課長）

事務局（教育総務課長、課長補佐、総務係長、主事職員1人）

オブザーバー：教育長、学校教育課指導主事1人

傍聴：1人

1 開会（午後7時～）

2 あいさつ（教育長より）

学校再編につきましては、平成27年度に在り方検討委員会からスタートしています。そこで出たキーワードは、「夢育・地育」と「小中一貫教育」の二つであり、教育委員会の方針とすることとしました。これを受けて、平成29年度からの教育環境適正化検討委員会や平成30年度からの再編計画策定委員会で協議が進められ、湯日小学校と初倉小学校との統合が決まりました。初倉地区の夢育・地育については、研究指定をかけ、地域との連携により大きな成果があがっています。また、小学校と中学校の関係性が深まっています。さらに、地域の皆さんの協力を得て公民館で行っている寺子屋事業についても、県教委から高い評価を受けています。心より感謝を申し上げます。初倉地区につきましては、初倉南小学校と初倉小学校との統合や小中一体校の議論が残されたままとなっておりますので、皆様のお力をかしていただき、子供たちのためにより良い選択となりますことを期待しておりますので、よろしくお願い申し上げます。

3 島田市立初倉地区小中学校再編方針検討委員会の設置目的について（事務局より）

島田市立初倉地区小中学校再編方針検討委員会規則第1条に記載のとおり、令和元年8月29日に策定した「島田市立小中学校再編計画」に基づいています。小中学校再編計画は、島田市教育環境適正化検討委員会提言書で示された「湯日小学校を先行して初倉小学校と統合する。将来的には初倉南小学校を現在の初倉小学校に統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫教育校とする。」という再編方針案を基に検討を重ねて策定されたものですので、継続協議となった初倉南小学校と初倉小学校の再編については、後半の「将来的には初倉南小学校を現在の初倉小学校に統合した上で、初倉中学校も含めた準一体型の小中一貫教育校とする。」の部分について、委員の皆様にご検討いただくこととなります。

4 委員紹介（各自己紹介）

事務局：委員長につきましては、委員会規則第5条第2項により、「委員長は、教育部長をもって充てる」こととしていますので、中野教育部長が就任することになります。

○委員長からあいさつ

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本委員会では、初倉南小学校と初倉小学校との統合及び初倉中学校との一貫教育など、初倉地区における学校教育が目指すべき将来の姿についての検討をすることになります。初倉地区にとって大変重要な検討になるため、ぜひ、委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

5 副委員長の選任（委員からの立候補や推薦による）

事務局：副委員長につきましては、「島田市立初倉地区小中学校再編方針検討委員会規則」第5条第3項において「委員の互選により定める」となっています。選任のため、進行を委員長にお願いします。

委員長：副委員長に立候補する方は挙手をお願いします。（立候補者なし）

委員長：推薦したい委員がいましたら挙手をお願いします。

- ・初倉南小学校長から大石光男氏を推薦する申し出あり
- ・他者の推薦なし
- ・大石氏の承諾あり

委員長：副委員長は大石光男さんに決まりました。

○副委員長からあいさつ

大変な問題だなと思っていました。皆さんの力を借りて、しっかり話し合いをして、これからの方針が決まっていければと思います。よろしく申し上げます。

6 協議事項

委員長：会議の公開・傍聴について、可能としてよろしいでしょうか。（異議なし）

委員長：特に意義はないようなので、傍聴可能とします。

委員長：協議内容により、専門的知識を有する者の出席についてもご了承いただきたいが、いかがでしょうか。（異議なし）

委員長：特に意義はないようなので、必要に応じて有識者が出席できるものとします。

（1）初倉地区の学校再編のこれまでの経緯（事務局より）

平成27年度に設置した「島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会」からは、夢育・地育を推進していくことを前提に、今後必要とされる学校再編については、適正規模や学校施設の老朽化の状況などを考慮し、児童生徒の教育環境充実の観点から学校再編を検討することという提言をいただきました。これを受けまして、平成29年度には島田市教育環境適正化検討委員会を設置し、「子供を最優先にした学校づくり」を目指した提言書が提出されました。初倉地区については提言書（7ページ）で再編

方針案が示されており、湯日小を、先行して初倉小に統合すること。将来的には、初倉南小と初倉小を統合した上で、初倉中を含めた準一体型の小中一貫教育校とすることを検討すべきとされています。その後、平成30年度からは島田市小中学校再編計画策定委員会を設置し、学校再編について具体的な協議を進め、湯日小については令和3年4月に初倉小に統合、初倉南小と初倉小の再編については検討を継続するという計画になりました。この初倉南小と初倉小の再編について検討を継続することになったため、新たに立ち上げたのが、この委員会ということになります。

(2) 再編方針検討委員会の検討内容等について（事務局より）

ア 検討事項について

①初倉小学校と初倉南小学校の統合時期（タイミング）をいつにするか。

統合時期として考えられるのは、児童数の減少に伴う適正規模の確保や、校舎等の改築工事、長寿命化工事などがあります。（施設概要と学校別児童数推移については別紙参照）

②統合の形態をどうしたいか。

島田市では初倉地区を小中一貫教育のモデル地区にすることを視野に入れており、小中一貫教育を効果的に推進するために、一体型小中一貫校にすべきか、準一体型小中一貫校にすべきかといった検討が必要と考えています。

イ 方針決定の時期について

再編計画では令和3年3月を方針決定の目途としていますが、初倉中学校も含めた小中一貫校という深い議論となりますので、事務局としては令和3年4月以降になることを想定しています。

ウ 保護者や地域の声の集約について

アンケート調査を実施することを考えています。ただし、委員の皆様から他の集約方法を提案していただき、本委員会で実行することが決まりましたら、実施することも可能です。

委員長：ただ今の説明のうち、「方針決定の時期」を令和3年4月以降に延ばして良いかということ、今回決めておきたいと思います。初倉地区の将来に関わる内容ですので、時間をかけてしっかり協議すべきと考え、令和4年3月あたりまで延長しても良いと感じていますが、皆さんはどうでしょうか。

委員A：再編を必ずしなければならないのですか。教育委員会で再編に関する案（スケジュール等）があるのですか。それを示していただき、再編したい理由を明確に説明して貰わなければ、賛成も反対も言えません。

事務局：初倉南小と初倉小の再編については、島田市が小中一貫校を目指しているため、初倉地区をそのモデル地区にしたいと考えております。その際、中学校を含めた一体校にするべきか、小学校だけを統合し、別々の敷地のまま小・中1対1の一貫校

にするべきか、といった協議をしていただきたいと思います。協議をしていただく中で、この委員会としての案を作成し、教育委員会に提出・報告していくことになります。

委員A：小中一貫はどんなものなのですか。

事務局：小中一貫校のメリットとしては、中一ギャップ(身長など身体的変化)に伴ういじめ等を解消したり、小中学校の先生が兼務になることで生徒が安心感を得られたりする等が挙げられます。

委員A：そこまでわかっているのなら、教育委員会の案を作れるのではないですか。そうでないと、意見の言いようもないと思います。

事務局：委員の皆様がそうした方向がよいということでしたら、いくつかパターンを用意して、選択肢にさせていただくこともできます。その際、アンケート調査の結果を含めた形で提示することもできるかと思います。

委員B：今決まっているのは、小中一貫校を目指すに当たり、初倉南小学校と初倉小学校を統合するということです。しかし、児童数の減少を待っているだけでは統合の時期を判断することは困難です。そこで別の視点から、校舎改修のタイミングということも一つあるということです。これ以外にもあると思いますが、こうした課題について話し合っ、統合の形態やそのタイミングを根拠とともに検討していくことが、この委員会の役割だと考えています。

委員C：小学校の適正規模は、12～18クラスです。初倉南小も初倉小も適正規模ですので、急いで結論を出す必要はないのかなと思います。また、昨年度のパブリックコメントでも、「1クラス20人を切る場合や、クラス替えができない場合は、適正規模化を図る目的で早期に再編が必要」と書かれており、学校再編計画策定委員会の提言から時期尚早ではないでしょうか。ただ、地域の皆さんからも1クラス20人を切るような場合は再編も仕方ないという声を聞いています。

委員長：事務局には、次回の協議で選択肢となるような複数案を提示できるようにしてほしいと思います。アンケートについても実施したら結果を提示してください。

委員D：アンケートには、「統合しない」という選択肢を入れてください。10年も先の話はこの会で話しても、数年で決まる話とは思えません。そんな先の話をしても終わらないと思います。家の周りではどんどん宅地化が進んでいるので、とてもここ数年で人数減による統合ということはないと思います。

委員長：重複になりますが、施設の老朽化という側面もあり、そこをタイミングと考えることもあるのでは、という事務局の説明でした。

委員D：老朽化が進んでしまったら、それを補うような工事はしないで、もうその学校は終わりです、ということですか。

委員長：タイミングとしてです。老朽化が進んだら、全面改修をしなければならない時期がきます。その際は、やはり大きな費用がかかってくるものですから、そこをタ

イメージに小中一貫校に対応した再編ということを考えたらどうでしょうか、ということですが。

委員E：適正化については、子どものことが最優先ということなのですが、小中一貫校にするメリットやデメリットについて、適正化検討委員会などで議論をしたことがあるのでしょうか。あるのであれば、ぜひ、それを教えてほしいと思います。また、校舎の老朽化については、小学校だけではなく中学校の問題でもあります。実際にある義務教育学校や一体校のメリットやデメリットの知識が増えなければ、議論になりませんので、委員の皆さんに情報提供をしてほしいと思います。場合によっては、いける人だけでも視察に行くことが有効ではないでしょうか。

事務局：小中一貫校については、適正化検討委員会の中で話し合われた結果です。ただし、統合はするけれども、少なくとも今ではないと思っています。今ではないけれども、どういった時に踏み切るか、方針を決める検討委員会であることを御理解ください。何年後かに児童数の減少傾向が見られたときに、「では統合します」といっても、その時点ですぐに保護者や地域の皆さんの共通理解が得られるかということ、これまでの他の地域での説明会などを考えても、容易ではないと思います。ですので、「こういう段階になったら」、または「こういう時期がきたら統合を考えましょう」ということを、この会で決めていただきたいということです。

事務局：一体校のメリット等については、次回提示できるようにしていきます。

教育長：掘り下げた話し合いをするためにも、事務局から資料を提供してもらうこととします。自分の教わった先生が中学校にいるということは、子供たちの不安を取り除きます。これらを効果的に進めるには、中学校の先生が小学校2校に出向くよりは、小中1校1校の方が理想的です。もっと効果的なのが、小中一体校ということになります。初倉地区をモデル地区にするということは、こういった効果をよりあげるために、どういう形態にするかということをお話し合っていたきたいのです。

委員長：では、一貫校の関係については、次回資料を委員の皆さんにお示しするというところでお願いします。方針決定の時期については、令和4年3月という形で考えたと思っていますが、よろしいでしょうか。（特に異議なし）

委員長：では、方針決定の時期については延長して、令和4年3月にさせていただきます。

（3）今後のスケジュールについて

方針決定の時期の延長について委員の皆様にご承知いただきましてありがとうございます。委員会については、今回を含め今年度は2回の開催を予定しており、第2回目の開催時期は年明けを考えています。また、アンケートの実施する時期や内容については、教育委員会で検討させていただきたいと思います。

委員長：2回目は年明けの開催とし、アンケートについては事務局に一任ということ

ですが、よろしいでしょうか。(特に異議なし)

委員長：それでは、年明けの開催を予定しておいてください。

(4) その他

委員F：進め方によっては夢や可能性など広がりのある話だと思いますが、校長会の認識では、初倉南小学校と初倉小学校の統合が決まったというよりは、統合の是非について検討していくという認識のようですが、いつ決まったのでしょうか。

委員G：統合が決まったということではなく、小中一貫校を推進するために、統合する方向でいくという市の方針が決まっているということです。

教育長：再編の話は、関係する校長みんなが集まって協議をしてきました。ですので、校長会でその認識がなかったということについては、とても残念な気がします。湯日小学校と初倉小学校が先行統合し、将来的には初倉南小学校と初倉小学校についても統合することが望ましい、という結論が出ています。

委員H：決定したのですか。

委員G：「いつ」ということは決まっていますので、いつかはわかりませんが、統合しましょうという方針が決まっているということです。

委員H：20年先30年先の話は今しても仕方ないんじゃないですか。

委員G：いつかはわかりませんが、少子化は確実にやってくるので、再編計画に載っている校長たちも集まって、今のうちから方針を決めておきましょうということになりました。

委員I：もともとは初倉小だけだったところ、児童数が増えたことで当時の時代の流れから初倉南小に分離しましたが、将来を考えると全国的に児童数が減少してきているから、行政としては今すぐにではないにしても元に戻したいということですね。

委員H：継続検討という流れだったのに、もう統合の方針が決まっているというのはおかしいと思う。

委員I：今の人数のままだと、15年くらいは統合ができないと思います。市としていつまでに再編したいんだという話を出してもらわないと、意見の言いようもない。

委員H：やることは決まっていて、検討会では「いつやります」というのを決めるだけとなると、反対している人がいると分かっている中で、その人たちの意見をいったいどこで聞くのかなと思います。実際に通っている保護者の皆さんの反対の請願書をお渡ししているのに、その意見を聞いてもらえる場がなくなっているのは、子どもたちが置き去りにされているように感じます。

教育長：反対の署名をいただいたことは重く受け止めています。お互いの認識に少しズレがあると思います。当時の一番の反対の理由は、3校同時統合は早すぎるということだったと思います。そのときも、初倉南小学校が単学級になったときは統合が必要という保護者の意見も出ていました。ただし、統合は2、3年のうちにという話ではありません。いくら校舎の老朽化が進んだにしても、基本設計、実施設計、工事期間等を考えると最速でも4年以上は掛かります。でも、今まで統合問題を話し合ってきた中で保護者の皆さんからは、「急に言われる」「考える時間がなさすぎる」「心の準備もできていない」ということが、大変なストレスになると伺ってきました。です

ので、令和何年統合という風に期限を区切るというだけでなく、例えば「こういう状況になったら統合を進めましょう」というような方向性を決めておくことも、一つの方針だと思っています。いろんな決め方があると思いますので、そこに皆さんのお知恵をいただきたいということです。

委員H：こうなったら統合をやりたいですね、ということですか。

委員G：そういうことです。何の根拠もなくいつ統合するではなくて、こういう状況になったら統合しましょう、という部分話し合っ決めておきたいのです。そこが、学級数なのか、校舎の改築なのか、といったタイミングが考えられるということです。

委員J：将来的に単学級になったらとか、先を見据えて今のうちから話し合いを進めています、ということでしたら、保護者の皆さんや地域の皆さんもご理解いただけるとと思います。

委員K：自分も策定委員会のメンバーでしたが、認識不足でした。一番の問題は、同じ時期に校舎の老朽化がやってくることと思っています。また、小中一貫校ということで統合を進めるにあたっては、湯日小と初倉小の統合と違って、同規模同士の統合は大変なことなので、どういうメリットやデメリットがあるのかをもっと出していった方がよいと思います。その上で、一体型がよいのかどうかを判断すべきと思うので、次回の資料ではご準備をお願いします。

委員L：子どものためにどうしたらいいのかを考えることが大事だということは、皆さんの共通認識だと思います。中でも小中一貫は、子どもにとってデメリットはなく、メリットが多いので進めるべきです。そのために学校は分散させるより集中したほうが効果的と考えています。

委員M：何年先のことになるかわかりませんが、人数ではなく、子どものために小中一貫校が必要なんだということを柱にしないと、保護者の皆さんを説得できないと思います。先進的で、より良い学校づくり、地域づくりを目指していくことを発信していきましょう。

委員N：小中一貫という言葉を理解できていませんでした。しかし、小中一貫にはたくさんさんのメリットがあるということなので、ぜひそれを教えていただきたいを思いました。校舎建築とか、経済的な話から入ってしまうと、やはり子どものためなのかなという気持ちになってしまうので、小中一貫について理解することから始めたいです。

委員長：小中一貫のメリットなどにつきましては、事務局で準備して皆さんに提示していきたいと思っています。

7 閉会（～午後8時31分）